

れる。クロガネモチは、武庫川周辺の各所に分布しているが、上流部に多く、幼木、成木、古木など大きさもいろいろである。下流部では、古木が散在するが、幼木や余り大きくない成木もほとんどなく、全般的に少ない。殊に、阪神電鉄以南では、ほとんど見ることがない。

現在、本種は武庫川周辺の上流部には確実に分布しているが、下流部については、記録と痕跡があるのみである。しかしながら、下流部についても、発生に適した成木が成長するなど条件さえそろえば、発生の可能性はあると思われる。あるいは、目こぼしも当然あることだから、もっと多くの場所で発生しており、その中には下流部での発生があるかも知れない。食草であるクロガネモチは最近人気があり、公園や民家への栽植、それに伴う植木畑での栽植が盛んであるから、食草は増える傾向にある。ところで、本種がよく発生する余り大きくないクロガネモチの成木は、今回発生を確かめた場所以外にも少なくないが、こうした木があるからと言って必ずしも発生しないのは食草の成長度や生えている土地の土質などによる成分の違い、日照などの環境等、様々な条件が適しないと発生しないためと思われる。それにしても、虫イコール害虫、即殺虫剤撒布というパターンでの定着した現在、市街地近くで発生することは、なかなか困難であるが、社寺林や公園、植木畑それに堤防などの人目につきにくいところでは今後とも発生し続けるであろう。

## 神崎町福本における建造物内と周辺および路面上の蜻蛉

森 田 真 澄

最近住宅街にある自宅付近では目に入ることのめっきりと減ってしまったトンボであるが、筆者の日常の行動圏の一角である神崎郡神崎町福本では分布論上特に貴重なもの珍無類な種は発見していないが、人間の極く極く近くにトンボ達が棲息しており目の正月をさせてくれる。そこで人為的な環境変化を多少被ったトンボ達と簡略な環境状況を報告する。

◎グンバイトンボ *Platynemis foliacea sasakii* Asahina と棲息地

<採集例> 1♂., 11—Ⅶ—1987, 1♂ 1♀., 19—Ⅶ—1988, 1♂., 13—Ⅵ—1988.

小規模な工場の南側を流れる細溝や付近の叢に少なからず見られる。交尾例も1988年6月15日正午頃目撃している。この細溝は1984年に開削してできた人工的な水路であるが、コンクリート等で成型はしていない。細溝の南側は丘陵地の傾斜面であり小流と滲出水が少量流入する。細溝の水のPHは

6.1, 電気伝導度は 0.03ms/cm。細溝の東端は小さな積水池となっており少量の工場廃水が流入する。この池のPHは 7.9, 電気伝導度は 0.05ms/cm。丘陵側の植生はアカマツ疎林であり所々アカメガシワ・ソヨゴ・アセビ・ヤブツバキ・コバノミツバツツジが見られ水際にはジャゴケ・ヒノキゴケが乾いた斜面にはツルゴケが見られる。細溝水中にはイモリが居りモリアオガエルの卵塊が水際付近の樹上や崖に見られる。他のトンボとしてシオカラトンボ・オオシオカラトンボ・コシアキトンボ・ウスバキトンボ・オニヤンマ・タカネトンボが見られた。水流は晴天時はほとんど無い。

◎コヤマトンボ *Macromia amphigena* Selys の打地行動と路面静止のトンボ

1987年7月20日午後5時頃、川幅5m程の溪流脇の表面が粗いコンクリート舗装道で1♀が腹端を2回(間隔1秒弱)打ち付けて後、路面に静止したものを採集した。路面上に卵は発見できなかった。晴天であり路面に水分はなかった。水面であれば打水産卵ということになるのかも知れないが、奇妙な行動である。コンクリート道と何か関係があるのだろうか。このコンクリート道路上で採集したトンボを以下に列記する。すべて路面で静止していたものである。

ヤマサナエ *Gomphus melaenops* Selys

1♀., 19—VI—1987。

ダビドサナエ *Davidius nanus* Selys

1♀., 17—V—1988。

オナガサナエ *Onychogomphus viridicostus* Oguma

1♀., 31—VII—1987。1♀., 3—VIII—1988。

コオニヤンマ *Sieboldius albardae* Selys

1♀., 20—VI—1987。

◎家宅侵入のトンボ

山麓に廃屋の農舎ありそこを午前7時頃見回るとなにかしかのトンボが屋内に居ることが多い。以下その一部で採集できたものを列記する。農舎の所有者には立入許可済。

モノサシトンボ *Copera annulata* Selys

1♀., 23—VI—1988。

オオアオイトトンボ *Lestes temporalis* Selys

1♂1♀., 26—ix—1988。交尾中

ミルンヤンマ *Planaeschna milnei* Selys

1♀., 25—VIII—1988。

コシボソヤンマ *Boyeria maclachlani* Selys

1♂., 13—VIII—1987。

タカネトンボ *Somatochlora uchidai* Foerster

1♂1♀; 7—ix—1988。

以上5種確認できたが、何故屋内に侵入したのであろうか。夜露を凌ぐ場、迷入、外気との気温差、捕食行動をするため等々、勝手な推測はいくらでもできるが、人的環境がなければあり得ないことであるのは間違いない。なお電燈はない。

◎裏庭のヒメアカネ *Sympetrum pervulum* Bartenev

<採集例> 1♀., 21—viii—1987。1♀., II—X—1987。

知人の裏庭である。ここは山麓の小湿地であり生活廃水の流入はなく良好な環境が保たれている。ヒメアカネはこの湿地を中心とする林中に多数見られる。他のトンボ類は余り見られずミヤマアカネ・ナツアカネ・アキアカネ・キトンボを目撃できた程度である。地域の教人の中老年植物愛好者には知られた場所で湿地の所有者である知人も愛好者には心安くこの裏庭湿地を見学させてくれる。湿地内にはモウセンゴケやイシモチソウの食虫植物、サギソウ・トキソウ・ミズトンボ等ラン類が、岸辺にはサワギキョウ・カキラン・マアザミが、岸に上るとフジバカマ・オケラ・ソヨゴ・コバノミツバツツ・ネズが見られ、岸辺から10m位でアカマツ林に入る。林中にはジュウニヒトエ・キンラン・ヒメヤブラン・フタリシズカ・ヤマジノホトトギス・ムベが見られる。少し離れたススキ群落にはナンバンギセルがシイタケの榎場にはギンリョウソウモドキが見られる。湿地水のPHは7.4。少し水道より地下水が流入しているようである。地下水のPHは8.4であった。播磨地方の湿地はこのところ次々と埋め立てられて行くケースが多いようだが、この場所のように所有者の生活上の信条や価値観によって辛うじて、珍しい生態系を存続できている一例であることを銘記しておきたい。

## 兵庫県下にミヤマカメムシを産す

高橋 寿郎

従来兵庫県産ヒメカメムシ *Rubiconia intermedia* Wolff と同定して来たものの内その大部分はミヤマカメムシ *Hermolaus amurensis* Horváth と同定すべきであると思われるので此処に訂正しておきたいと思う。

ヒメカメムシの方は図説も多くあり稀な種と言われているが、比較的良く知られているカメムシ